

令和6年度

Syllabus

履修の案内

《55回生用》



一般社団法人 兵庫県歯科医師会附属

兵庫歯科衛生士学院

1 年次



第1学年 (55回生)

分野	学科目	講師名	総時間数	単位	ページ
基礎分野	生物学	渡 康彦	24	1	1
	化学	秋篠 範子	24	1	2
	心理学	丸山 智美	20	1	3
	医療コミュニケーション	大島 百合香	16	1	4
	小論文	青松 智学	16	1	5
	国語表現法	新稲 法子	16	1	6
	ホスピタリティ学	中村 智恵子・岡本 真樹・妃乃あんじ	20	1	7
	運動生理学	甲斐 義浩	16	1	8
専門基礎分野	解剖学①	清水 孝治	28	1	9
	生理学	森 明彦	28	1	10
	生化学	伊東 禎雄	20	1	11
	口腔解剖学	小林 正樹	30	2	12
	組織発生学	藤岡 学	22	1	13
	病理学	山根木 康嗣	16	1	14
	微生物学	楠元 順哉	20	1	15
	薬理学	長谷川 巧実	16	1	16
	口腔衛生学	上根 昌子	40	2	17
	情報統計学	坂中 哲人	20	1	19
	衛生学・公衆衛生学	平岡 佑二郎	28	1	20
	衛生行政・社会福祉①	七野 敏光	16	1	21
専門分野	歯科衛生士概論	肥塚 美奈子	20	1	22
	歯科臨床概論	清水谷 公成・大矢 卓志	16	1	23
	歯科医療倫理	森本 誠一	16	1	24
	歯科保存学(保存修復学)	井上 昌孝	20	1	25
	歯周病予防処置①	山下 由佳・篠原 理恵 肥塚 美奈子・角田 安佳梨	102	3	26
	う蝕予防処置	肥塚 美奈子・篠原 理恵 岩城 万希子・平野 直子	34	1	29
	歯科診療補助①	清水 敬江・岩城 万希子 角田 安佳梨・肥塚 美奈子	88	2	31
	歯科保健指導①	難波 恵子・平野 直子	60	2	34
	栄養指導	堀内 理恵	20	1	36
選択必修	関連医学①	長尾 匡子	16	1	37
	代替医療	跡部 沙智	16	1	38
	音楽療法	古川 和香子	16	1	39
	ペン習字	和田 彩	16	1	40
	情報処理	神田 貢	16	1	41

基礎分野

生物学

分野	基礎分野	教育内容	科学的思考の基礎
単位数	1単位	担当教員名	渡 康彦
学年	1年次	授業時間	24時間
一般目標	生命とは何か？という問題から、生命の構成単位である細胞や生命をつなぐ遺伝、生命の環境への反応と学んでいく。教科書を中心に講義を進めるが、いろんな生物に関するトピックをはさんで、生物学への理解と関心を持ってもらう。		
成績評価	単位修得試験		
教本	歯科衛生学シリーズ「生物学」(医歯薬出版)		

回数	教育項目	授業内容
1	生命とは I	生命とは何か、生命の誕生について
2	生命とは II	単細胞生物から多様な生物を生み出した進化について
3	組織と細胞 I	細胞の構造とさまざまな活動について
4	組織と細胞 II	細胞、組織、器官について
5	生命の連続 I	生殖方法と減数分裂について
6	生命の連続 II	遺伝と遺伝子について
7	生命の連続 III	発生の過程と仕組みについて
8	環境と動物の反応 I	刺激の受容と反応について
9	環境と動物の反応 II	内部環境を保つ仕組みについて
10	環境と動物の反応 III	動物の行動と進化について①
11	環境と動物の反応 IV	動物の行動と進化について②
12	まとめ	まとめと試験についての注意

化 学

分 野	基礎分野	教 育 内 容	科学的思考の基礎
単 位 数	1単位	担当教員名	秋篠 範子
学 年	1年次	授 業 時 間	24時間
一般目標	日常生活における化学の役割から始まって環境問題、生物との係わり、そして医学・医療の基本に関する一般的な事を学び考える。知識プラスその応用、歯科医学・医療において、化学の素質は必須であり、毛嫌いのないよう授業を組み立てる。		
成績評価	単位修得試験、レポート、授業態度を総合的に評価		
教本	歯科衛生学シリーズ「化学」(医歯薬出版)		

回数	教育項目	授業内容
1	化学とは	化学を学ぶ意義
2	原子とは	物質のもとになるもの
3	分子と化学結合①	物質のでき方
4	分子と化学結合②	さまざまな結合
5	気体・液体・固体	目に見えないもの・手に触れるもの
6	化学の基本法則	化学反応の法則
7	酸とアルカリ	物性の基本
8	中和反応	中和と塩の性質
9	酸化・還元	電子のやりとりと金属
10	有機化学①	炭素の化学
11	有機化学②	生体の物質①
12	有機化学③	生体の物質②

心 理 学

分 野	基礎分野	教 育 内 容	人間と社会生活の理解
単 位 数	1単位	担当教員名	丸山 智美
学 年	1年次	授 業 時 間	20時間
一般目標	医療の現場だけにとどまらず、社会の一員として生活していくためには、周囲とのコミュニケーションが不可欠である。コミュニケーションは単なる情報伝達の手段ではない。しかし、その情報を読み解くにはまず、人の心の性質について知っておくことが必要である。そこには、人の心を理解するための大切な情報が含まれている。この授業では、人の心の理解を目的として心理学を学ぶ。		
成績評価	単位修得試験		
教本	歯科衛生学シリーズ「心理学」(医歯薬出版)		

回数	教育項目	授業内容
1	見る・聞く・感じるころ	知覚成立の基礎、知覚の体制化、知覚の諸相
2	覚えるころ	記憶のメカニズム、記憶の病理とゆがみ
3	学ぶころ	学習(レスポント条件づけ)
4	学ぶころ・やる気の心理	学習(オペラント条件づけ)、動機づけ
5	喜怒哀楽のころ・パーソナリティ	喜怒哀楽、パーソナリティ
6	パーソナリティ	パーソナリティ
7	人と関わる心理、人と集うころ	対人認知、帰属理論、対人魅力、集団の心理、社会的影響
8	発達するころ	発達
9	発達するころ	発達②
10	思いを伝え合うころ、健康なころ、カウンセリングのころ	医療コミュニケーションの基礎、コミュニケーション・スキル カウンセリングとは、カウンセリング・マインド、介入法 メンタルヘルス、心理臨床の対象、心理療法のいろいろ

医療コミュニケーション

分野	基礎分野	教育内容	健康と教養
単位数	1単位	担当教員名	大島 百合香
学年	1年次	授業時間	16時間
一般目標	医療者として患者と上手にコミュニケーション・スキルを学ぶ。		
成績評価	レポート、授業態度を総合的に評価		
教本	「歯科スタッフのためのケア・コミュニケーション」(ウイネット)		

回数	教育項目	授業内容
1	医療面接の基礎	医療面接に用いられる基本的技術を知る
2	歯科医院におけるコミュニケーション①	コミュニケーションの方法を学ぶ
3	歯科医院におけるコミュニケーション②	患者主体のコミュニケーションを図ることができる
4	傾聴①	受容・共感的理解を学ぶ
5	傾聴②	受容・共感的理解を実践する
6	認知行動療法	認知行動療法の基本を学ぶ
7	クレーム対応	クレーム対応を学ぶ
8	ロールプレイ	歯科衛生士としての現場での応用を学ぶ

小 論 文

分 野	基礎分野	教 育 内 容	人間と社会生活の理解
単 位 数	1単位	担当教員名	青松 智学
学 年	1年次	授 業 時 間	16時間
一般目標	論題について筋道を立てて意見を述べる。		
成績評価	授業態度、小テストを総合的に評価		

回数	教育項目	授業内容
1	書くための基本事項	言葉の使い方、文の組み立て
2	論理の構造1	接続語の働き、因果関係
3	論理の構造2	具体と抽象、対比
4	論理の利用1	文章の構成
5	論理の利用2	反論を想定して書く
6	論理の利用3	資料を比較・考察する
7	論理の利用4	資料を読み取って論述する
8	論理の利用5	目前の課題に対して、意見を述べる

国語表現法

分野	基礎分野	教育内容	人間と社会生活の理解
単位数	1単位	担当教員名	新稲 法子
学年	1年次	授業時間	16時間
一般目標	学生、社会人に必要な日本語表現のきまりやテクニックを習得する。 主として書きことばを扱うが、話しことばについても部分的に取り上げる予定。		
成績評価	単位修得試験、レポート、授業態度、小テスト結果を総合的に評価		
教本	「伝える伝わる文章表現」(KSTプロダクション)		

回数	教育項目	授業内容
1	事実を伝える	論理的な文章を書くための基礎の基礎
2	わかりやすく書く(1)	誤解を生まない書き方、表現の洗練
3	長い文章を書く(1)	段落の分け方
4	長い文章を書く(2)	トピックセンテンスを使って書く
5	メディアリテラシーを身につける	引用のマナー・情報の検索・吟味・活用
6	わかりやすく書く(2)	誤解を生まない書き方、表現の洗練
7	長い文章を書く(3)	アウトラインを使って書く、まとめ
8	文章の長さを調節する	要約の方法

ホスピタリティ学

分野	基礎分野	教育内容	人間と社会生活の理解
単位数	1単位	担当教員名	中村 智恵子・岡本 真樹・妃乃あんに
学年	1年次	授業時間	20時間
一般目標	<p>(ビジネスマナー) 歯科衛生士として職場で、患者様、先生、同僚達とよい関係で働くためには、社会人としての常識やマナーを身につけておくことが求められます。日頃、「自分のちょっとした態度が、相手にどの様に受け止められるか?」「本当に相手の話を上手く聞いているか?」など無意識の表情・態度・言葉遣いを注意する事で「摩擦」を避けることに繋がります。学生のこの時期に、社会人としての立場と役割を自覚し、心得ていなければならない対応のポイントを再確認します。組織の中で自分を見失うことなく、自信を持っていきいきと働き続けるために社会人としてのスタートセミナーです。</p> <p>(メイク法) 身体と心の為の健康法として、メイク法を学びます。</p> <p>(接遇マナー) 華やかな宝塚の世界から被災地復興支援へと転換した妃乃の人生背景から、人との向き合い方や「わたしらしく生きる」ヒントをお伝えします。</p>		
成績評価	授業態度		

回数	教育項目	授業内容	担当
1	一般教養「基本対応スキルⅠ」	ホスピタリティとは 医療機関の接遇とは	中村 智恵子
2	一般教養「基本対応スキルⅡ」	出会いの瞬間「第一印象」・「挨拶、返事」の 効用・心の鏡「表情、態度」	
3	基本対応スキル実践活用	基本対応スキルの実践活用法をグループ ワークで学ぶ、敬語・話し方・電話対応	
4	スキンケア、ベースメイク	肌質とトラブル、スキンケア、 ベースメイクの目的と手順	岡本 真樹
5	ポイントメイク (眉、アイメイク、リップ、チーク)	基本の手順と入れ方	
6	ビジネスメイク(ベーシック)	職場でのメイクのポイント	
7	“(応用①)”	顔立ちの修正・イメージメイク	
8	“(応用②)”	”	
9	講演1	華やかな宝塚の世界から被災地復興支援へ Vol.1 ～宝塚の世界～	妃乃あんに
10	講演2	華やかな宝塚の世界から被災地復興支援へ Vol.2 ～被災地から学んだこと～	

運 動 生 理 学

分 野	基礎分野	教 育 内 容	人間と社会生活の理解
単 位 数	1単位	担当教員名	甲斐 義浩
学 年	1年次	授 業 時 間	16時間
一般目標	到達目標は運動によって身体機能にどのように変化が生じるのか、その現象と仕組みについて講義をする。特に、運動中の身体機能の諸機能の適応、筋肉と燃料の関係、酸素摂取量とスタミナの関係、心臓と血液の循環、環境温と体温の関係、エネルギーと肥満の関係、健康づくりのための運動プログラム等について理解することである。また、リフレッシュ体操及び効果的な脂肪燃焼させる運動を実践する。		
成績評価	単位修得試験、小テスト結果を総合的に評価		
教本	「入門運動生理学」(杏林書院)		

回数	教育項目	授業内容
1	筋収縮とエネルギー供給	筋の種類と構造、およびエネルギー供給について解説する
2	筋線維の種類とその特徴	筋線維の種類と特徴、その変化について解説する
3	神経系の役割	神経細胞の構造と種類、運動調整のしくみについて解説する
4	神経細胞の興奮伝導	神経細胞における電氣的興奮とその伝導の仕組みについて解説する
5	筋の収縮様式と筋力	筋の収縮様式、トレーニングによる筋力の変化について解説する
6	運動と循環、呼吸	運動における循環および呼吸機能について解説する
7	運動処方	健康と体力、運動処方の実際について解説する
8	老化に伴う身体機能の変化	サルコペニア、フレイル、ロコモティブシンドロームについて解説する

專門基礎分野

解剖学①

分野	専門基礎分野	教育内容	人体(歯・口腔を除く)の構造と機能
単位数	1単位	担当教員名	清水 孝治
学年	1年次	授業時間	28時間
一般目標	解剖学はすべての医学の基礎となる身体の形態と構造を学ぶ学問である。 口腔を含む顎顔面は独立して存在するのではなく、全身と深く関わりを持っている。 歯科領域に現れる疾患の多くも同様に全身状態と関わってくる。 解剖学においては歯と口腔を除くヒトのからだの構造について学ぶ。		
成績評価	単位修得試験、レポート、授業態度を総合的に評価		
教本	①歯科衛生学シリーズ「人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学」(医歯薬出版) ②歯科衛生学シリーズ「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」(医歯薬出版) ③入学前教育プログラム:「歯科衛生士科コース 総合テキスト」(進研アド入学前教育センター) 他:視聴覚教材・頭蓋骨模型を使用して、人体の構造を感覚的にも理解してもらいたい		

	教育項目	授業内容
1	解剖学総論	人体の構造と機能1 (序章)
2	運動系1	人体の構造と機能1 (1章 骨格系)
3	運動系2	人体の構造と機能1 (2章 筋と運動)
4	運動系3	咀嚼筋 粘土実習
5	内臓1	人体の構造と機能1 (3章 消化と吸収)
6	顎・顔面・口腔内観察実習	顎・顔面・口腔内観察実習
7	〃	〃
8	内臓2	人体の構造と機能1 (6章 呼吸 8章 排泄)
9	脈管系1	人体の構造と機能1 (4章 循環)
10	脈管系2	歯・口腔の構造と機能 (2章 口腔付近の解剖学)
11	神経系 1	人体の構造と機能1 (5章 神経系)
12	神経系 2	人体の構造と機能1 (5章 神経系)
13	神経系 3	歯・口腔の構造と機能 (2章 口腔付近の解剖学)
14	感覚器系・内分泌・生殖器	人体の構造と機能1 (7章 感覚)

生 理 学

分 野	専門基礎分野	教 育 内 容	人体(口腔を除く)の構造と機能
単 位 数	1単位	担当教員名	森 明彦
学 年	1年次	授 業 時 間	28時間
一般目標	生理学は、解剖学と並んで基礎医学の最も基本的な分野であり、正常な生体の機能を取り扱う学問である。全身と口腔の機能は互いに影響を及ぼすものであり、口腔機能を学ぶ上で全身機能の理解は不可欠である。この講義では、まず正常な生体の機能について学ぶ。		
成績評価	単位修得試験にて判定する		
教本	歯科衛生士テキスト「生理学」(学建書院)		

回数	教育項目	授業内容
1	生理学概論・細胞について	生理学を学ぶ意義、細胞の構造と機能
2	体液	血液、組織液、リンパ液および脳脊髄液
3	体液の循環(その1)	心臓の特性
4	体液の循環(その2)	血液循環、リンパ循環
5	神経(その1)	神経の興奮の伝導および伝達、末梢神経の生理
6	神経(その2)	中枢神経系の生理
7	感覚	感覚の一般的性状、特殊感覚、深部感覚、内臓感覚
8	筋	骨格筋、心筋、平滑筋
9	呼吸	肺気量、呼吸運動、血液ガス、呼吸の調節
10	消化および吸収	消化液の分泌、消化管の運動、三大栄養素の吸収
11	尿の生成および排出・代謝	尿の生成機序、腎機能の調節、排尿の機序、エネルギー代謝
12	体温	体熱の産生と放散、発汗、体温調節
13	内分泌(その1)	ホルモンの定義・分泌調節
14	内分泌(その2)・生殖	作用および分泌異常、生殖機能

生 化 学

分 野	専門基礎分野	教 育 内 容	人体(歯・口腔を除く)の構造と機能
単 位 数	1単位	担当教員名	伊東 禎雄
学 年	1年次	授 業 時 間	20時間
一般目標	「細胞の構造と役割」を通じて生命現象を分子レベルで理解できるように、また、後半の口腔生化学を理解するための予備知識とするように学習する。		
成績評価	単位修得試験		
教本	歯科衛生学シリーズ「人体の構造と機能2 栄養と代謝」(医歯薬出版)		

回数	教育項目	授業内容
1	生体の構成要素	細胞の役割・生体における水、生体の構成成分と栄養素
2	生体における化学反応	消化と吸収・エネルギー代謝
3	〃	生体における恒常性の維持
4	糖質の代謝	糖質・糖質の分解過程とATPの生成
5	〃	血糖値
6	脂質の代謝	脂質の分類・脂質の代謝とエネルギーの生成
7	〃	生体膜とリン脂質
8	タンパク質の代謝	アミノ酸とタンパク質・タンパク質の加水分解
9	〃	アミノ酸の分解とエネルギーの供給タンパク質の生合成とDNA
10	生化学実習	生化学実習

口 腔 解 剖 学

分 野	専門基礎分野	教 育 内 容	歯・口腔の構造と機能
単 位 数	2単位	担当教員名	小林 正樹
学 年	1年次	授 業 時 間	30時間
一般目標	消化器系の最初の器官である口腔および歯について、その構造・周囲組織の役割も含めて学ぶ。		
成績評価	単位修得試験、授業態度を総合的に評価		
教本	歯科衛生学シリーズ「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」(医歯薬出版)		

回数	教育項目	授業内容
1	口腔の概要	口腔とは、体・歯の方向用語
2	〃	口唇、口腔前庭、固有口腔、口峡、舌
3	〃	口腔を構成する骨、三叉神経の走行について
4	〃	唾液腺、咽頭
5	口腔の概要/歯の解剖学	咀嚼筋、歯の概論
6	〃	永久歯(前歯)
7	〃	永久歯(小臼歯)
8	〃	永久歯(大臼歯)
9	〃	乳歯総論、乳切歯
10	〃	乳歯(乳犬歯・乳臼歯)
11	〃	永久歯まとめ
12	〃	歯冠・歯根・萌出・脱落の異常
13	〃	歯の配列と咬合
14	その他	顎関節
15	〃	総括

組 織 発 生 学

分 野	専門基礎分野	教 育 内 容	歯・口腔の構造と機能
単 位 数	1単位	担当教員名	藤岡 学
学 年	1年次	授 業 時 間	22時間
一般目標	生命の基本単位をなす細胞とその集合体である組織について、その性質と機能を通じて身体への役割を教える。		
成績評価	単位修得試験、レポート、小テスト結果を総合的に評価		
教本	歯科衛生学シリーズ「人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学」(医歯薬出版) 歯科衛生学シリーズ「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」(医歯薬出版)		

回数	教育項目	授業内容
1	細胞	細胞の構造、細胞の一生、小テスト①
2	組織1	組織の種類とその構成・上皮、支持組織
3	組織2	筋組織、神経組織、皮膚と粘膜
4	発生1	精子と卵子の発生、胚葉の形成、胎児の成長、小テスト②
5	発生2	骨の発生
6	発生3	顔面と口腔の発生、小テスト③
7	口腔組織1	エナメル質
8	口腔組織2	象牙質、歯髄、小テスト④
9	口腔組織3	セメント質、歯根膜、歯槽骨、歯肉、小テストプリントまとめ
10	実習1	口腔組織顕微鏡観察、スケッチ
11	実習2	//

病 理 学

分 野	専門基礎分野	教育内容	疾患の成り立ちと回復の促進
単位数	1単位	担当教員名	山根木 康嗣
学 年	1年次	授業時間	16時間
一般目標	病理学は病気の本態、すなわち病理の原因や成り立ちを教えてくれるだけでなく病気の診断、治療、ならびに予防に関する知識を与えてくれるものであり、臨床に直接的に関わりのある総合的な基礎科目である。「病理概説」では病気というものについての基本的事項を総論的に理解させる。		
成績評価	単位修得試験、授業態度を総合的に評価		
教本	歯科衛生学シリーズ「疾病の成り立ち及び回復過程の促進1 病理学・口腔病理学」(医歯薬出版)		

回数	教育項目	授業内容
1	病因論	病因(内因と外因)の分類を系統的に理解し疾患にあてはめて理解する
2	代謝障害	変性、壊死、アポトーシス、萎縮及び代表的代謝疾患について
3	増殖と修復	肥大と増生、化生、再生、肉芽組織、異物の処理(器質化を含む)について
4	循環障害	環境系の概要、循環障害による病態、傍側循環、高血圧と低血圧について
5	炎症、感染症	炎症の定義、原因、分類、分型について、病原微生物、日和見感染について
6	免疫、免疫異常	免疫応答とその調節、移植免疫、アレルギー自己免疫疾患、免疫不全症候群について
7	腫瘍	腫瘍の定義、発生、病因、疫学について 腫瘍の分類と症例の提示
8	遺伝性疾患、奇形	遺伝、遺伝性疾患(染色体異常と遺伝子病)、奇形について

微生物学

分野	専門基礎分野	教育内容	疾患の成り立ちと回復の促進
単位数	1単位	担当教員名	楠元 順哉
学年	1年次	授業時間	20時間
一般目標	歯科衛生士になるために必要な微生物の基礎知識を学び、それらにより引き起こされる疾患の成り立ちおよび経過や、原因微生物の性状を理解する。		
成績評価	単位修得試験、授業態度を総合的に評価		
教本	歯科衛生学シリーズ「疾病の成り立ち及び回復過程の促進2 微生物学」(医歯薬出版)		

回数	教育項目	授業内容
1	疾病と微生物	微生物とは、微生物と人との関り、微生物の種類、微生物分類学上の位置
2	微生物の病原性-1	形態・大きさ・構造・代謝・増殖・命名
3	微生物の病原性-2	主な病原性細菌、リケッチア、クラミジア
4	微生物の病原性-3	ウイルスの一般性状
5	微生物の病原性-4	肝炎ウイルスの性状、真菌・原虫の一般性状
6	宿主防衛機構と免疫-1	免疫概論、免疫の機構、宿主防御機構
7	宿主防衛機構と免疫-2	液性免疫・細胞性免疫、抗原抗体反応
8	宿主防衛機構と免疫-3、化学療法	アレルギー、化学療法
9	院内感染対策	院内感染対策と滅菌、消毒
10	総復習	総復習

薬理学

分野	専門基礎分野	教育内容	疾患の成り立ちと回復の促進
単位数	1単位	担当教員名	長谷川 巧実
学年	1年次	授業時間	16時間
一般目標	医療における医薬品の目的は、疾病、診断と予防である。薬理学では薬理作用、薬物の作用機序、薬物動態や毒性や副作用について学ぶ分野である。そして、歯科衛生士が日常の歯科臨床で薬を正しく使用するためには、使用する薬物の性質をよく知るとともに、薬理学を正しく理解する必要がある。		
成績評価	単位修得試験、授業態度、小テスト結果を総合的に評価		
教本	歯科衛生学シリーズ「疾病の成り立ち及び回復過程の促進3 薬理学」(医歯薬出版)		

回数	教育項目	授業内容
1	薬理学総論	薬理作用、薬物の作用機序、薬物の生態運命 医薬品の歴史、定義、分類、関連法規、薬剤の剤形
2	中枢神経系と薬	中枢神経系の機能 中枢神経系に対する薬理作用の基本
3	末梢神経系と薬	末梢神経とは、局所麻酔薬 自律神経に作用する薬物
4	循環器・呼吸器系と薬、炎症、止血と凝固	循環器系・呼吸器系に作用する薬、抗炎症薬、止血剤・抗凝固薬
5	感染症	消毒薬、抗菌剤
6	抗悪性腫瘍薬、免疫	抗悪性腫瘍薬、アレルギー、免疫
7	薬理学まとめ	薬理学の復習、プレテスト
8	〃	薬理学の復習、解説

口 腔 衛 生 学

分 野	専門基礎分野	教 育 内 容	歯・口腔の健康と予防に関わる 人間と社会のしくみ
単 位 数	2単位	担当教員名	上根 昌子
学 年	1年次	授 業 時 間	40時間
一般目標	歯および口腔機能に対する知識と歯科疾患についての知識を習得し、歯科疾患の予防と健康の保持増進について、個人および集団を対象とした場合の方法論を習得することを目的とする。また、公衆歯科保健活動の概要を知り、公衆衛生の立場から歯科衛生士に必要とされる能力を習得する。		
成績評価	単位修得試験、授業態度を総合的に評価		
教本	歯科衛生学シリーズ「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学」(医歯薬出版)		

回数	教育項目	授業内容
1	総 論	歯・口腔の健康と予防
2	〃	〃
3	〃	歯・口腔の構造・唾液の機能
4	〃	口腔の機能の概略
5	歯・口腔の付着物・沈着物	歯・口腔の付着物・沈着物
6	口腔清掃	口腔清掃の意義/人工的清掃法の分類と用具/為害作用/歯磨剤と洗口剤
7	歯科疾患の疫学	齲蝕の疫学
8	〃	歯周疾患、その他の疫学
9	齲蝕の予防	齲蝕発生のメカニズム/齲蝕の発生要因
10	〃	齲蝕活動性/齲蝕の予防法
11	フッ化物による齲蝕予防	人間生態系におけるフッ化物/フッ化物摂取量とその基準
12	〃	フッ素の代謝/フッ化物の毒性
13	〃	フッ化物応用による齲蝕予防方法と齲蝕予防メカニズム
14	歯周疾患の予防	歯周疾患の症状と発生機序
15	〃	歯周疾患の予防手段と処置

回数	教育項目	授業内容
16	その他の疾患・異常の予防	口腔癌／不正咬合／顎関節症／口臭症
17	健康に関わる地域の役割	地域保健・公衆衛生
18	〃	母子保健
19	〃	学校保健/成人・老人保健/産業保健
20	〃	災害時歯科保健/国際保健

情報統計学

分野	専門基礎分野	教育内容	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会のしくみ
単位数	1単位	担当教員名	坂中 哲人
学年	1年次	授業時間	20時間
一般目標	本講義では、言葉で表現しづらい複雑な現象を数字で表現する技術を修得し、現実世界の問題を客観的かつ科学的に分析する能力を養います。さらに、歯科特有の統計指標の理解を深め、エビデンスに基づく医療(EBM)の原理を学び、将来の歯科医療に貢献できる能力を養います。		
成績評価	単位修得試験、レポート、授業態度、小テスト結果を総合的に評価		
教本	歯科衛生学シリーズ「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み3 保健情報統計学」(医歯薬出版)		

回数	教育項目	授業内容
1	保健情報と保健統計	統計学入門、EBM、国家統計調査
2	健康情報と疫学	疫学の総論・方法論
3	歯科疾患の指数	う蝕の指数(Ⅰ)
4	歯科疾患の指数	う蝕の指数(Ⅱ)
5	歯科疾患の指数	歯周疾患の指数(Ⅰ)
6	歯科疾患の指数	歯周疾患の指数(Ⅱ)
7	歯科疾患の指数	口腔清掃状態の指数(Ⅰ)
8	歯科疾患の指数	口腔清掃状態の指数(Ⅱ)
9	保健統計の方法	保健統計の用語、方法(Ⅰ)
10	保健統計の方法	保健統計の用語、方法(Ⅱ)

衛 生 学 ・ 公 衆 衛 生 学

分 野	専門基礎分野	教 育 内 容	歯・口腔の健康と予防に関わる 人間と社会のしくみ
単 位 数	1単位	担当教員名	平岡 佑二郎
学 年	1年次	授 業 時 間	28時間
一般目標	人々の健康確保のための健康増進・疾病予防・ケアについて、社会・環境の側面からのアプローチ法を理解し、そのための歯科衛生士の役割について自覚を持てるようにする。		
成績評価	単位修得試験、授業態度を総合的に評価		
教本	歯科衛生学シリーズ「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学」(医歯薬出版)		

回数	教育項目	授業内容
1	衛生・公衆衛生学概論	予防医学の考え方
2	衛生統計	人口ならびに健康の指標
3	環境と健康	環境の健康影響と環境保全
4	疫学の考え方	疾病の原因と予防手段
5	食品と健康	栄養確保と食品衛生
6	感染症Ⅰ	感染と感染予防の概念
7	感染症Ⅱ	歯科医療と感染症
8	地域保健Ⅰ	地域保健活動とその進め方
9	地域保健Ⅱ	地域保健活動の評価
10	学校保健・母子保健	学校保健と保健教育・母性保護と育児
11	成人保健	生活習慣病の予防
12	老人保健Ⅰ	高齢者の健康確保と歯科保健
13	老人保健Ⅱ	介護予防と老人福祉
14	産業保健・精神保健	労災・職業病の防止・こころの健康と精神衛生

衛生行政・社会福祉 ①

分野	専門基礎分野	教育内容	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会のしくみ
単位数	1単位	担当教員名	七野 敏光
学年	1年次	授業時間	16時間
一般目標	歯科衛生士として医療に従事する際には是非とも、必要な衛生行政・社会福祉の知識を習得する。		
成績評価	単位修得試験、レポート、授業態度、小テスト結果を総合的に評価		
教本	歯科衛生学シリーズ 「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み2 保健・医療・福祉の制度」(医歯薬出版)		

回数	教育項目	授業内容
1	衛生行政	法制度の概要
2	〃	衛生法規・衛生行政の概要
3	歯科三法	歯科衛生士法(沿革および目的)
4	〃	歯科衛生士法(業務および義務)
5	〃	歯科衛生士法(免許)
6	〃	歯科医師法・歯科技工士法
7	医療・保健関係諸法規	医療法・医師法・保健師助産師看護師法
8	〃	薬事法・健康増進法・地域保健法など

專門分野

歯科衛生士概論

分野	専門分野	教育内容	歯科衛生士概論
単位数	1単位	担当教員名	肥塚 美奈子
学年	1年次	授業時間	20時間
一般目標	歯科衛生業務の考え方や行動の仕方を理解するとともに倫理的な視点を持ち、かつ科学的な裏づけをもって仕事することの意味を考える		
成績評価	単位修得試験、授業態度を総合的に判断		
教本	歯科衛生学シリーズ「歯科衛生学総論」(医歯薬出版)		

回数	教育項目	授業内容
1	歯科衛生学	歯科衛生学とは
2	歯科衛生の歴史	歯科衛生の誕生と経緯
3	歯科衛生活動のための理論	予防の概念、歯科衛生の考え方
4	歯科衛生過程	歯科衛生過程とは？
5	歯科衛生士法	歯科衛生士法
6	医療倫理	倫理の必要性
7	歯科衛生士の活動と組織	歯科衛生活動の現況
8	海外における歯科衛生士	海外における歯科衛生士の現状
9	歯科衛生学 まとめ1	グループワーク
10	歯科衛生学 まとめ2	グループワーク

歯科臨床概論

分野	専門分野	教育内容	歯科臨床概論
単位数	1単位	担当教員名	清水谷 公成・大矢 卓志
学年	1年次	授業時間	16時間
一般目標	歯科衛生士業務を行うために必要な主に歯・歯周組織に生じる疾患の種類と診断および治療の基本を理解し歯科臨床の概要について学ぶ		
成績評価	単位修得試験、受講態度を総合的に評価		
教本	「歯科衛生士のための歯科臨床概論」(医歯薬出版)		

回数	教育項目	授業内容	担当
1	I 編1章 歯科診療とは 2章 歯科診療所	総論 歯科の特異性と歯科臨床の概要	大矢 卓志
2	I 編3章 歯科診療所における業務	歯科診療所と業務	西田 真也
3	II 編2章 歯科診療で行うこと	歯科診療の基本	荻田 雄紀
4	II 編1章 ライフステージと歯科診療 2章-1 診査・検査・前処置	各ライフステージにおける歯科診療と 主な診療の流れ バイタルサイン・画像検査・除痛	清水谷 公成
5	II 編2章-2 小児歯科 3 歯科矯正	小児歯科の概要 矯正歯科の概要	大矢 卓志
6	II 編2章-5 歯科保存 6 歯周治療	歯科保存治療の概要 (歯周組織の検査を含む)	赤松 正広
7	II 編2章-7 歯科補綴	歯科補綴治療の概要	前田 多津子
8	II 編2章-4 口腔外科 8 障害者歯科・高齢者歯科	口腔外科および 障害者歯科・高齢者歯科の概要	清水谷 公成

歯 科 医 療 倫 理

分 野	専門分野	教 育 内 容	歯科医療倫理
単 位 数	1単位	担当教員名	森本 誠一
学 年	1年次	授 業 時 間	16時間
一般目標	DOSからPOSへと変化してきた医療・保健分野においてチーム医療の一翼を担う歯科衛生士にも倫理的判断に基づいた行動が求められる。歯科医療サービス提供の規範となる倫理観を養う。		
成績評価	単位修得試験100%		
教本	歯科衛生学シリーズ「歯科医療倫理学」(医歯薬出版)		

回数	教育項目	授業内容
1	現代社会と医療	伝統的な医の倫理から新しい医の倫理へ
2	〃	患者の権利
3	インフォームド・コンセント	臨床とIC
4	〃	研究とIC
5	生命の終わりに関する倫理的問題	生命維持治療の拒否と差し控え
6	〃	安楽死
7	〃	脳死と臓器移植
8	生命の始まりに関する倫理的問題	生命の「選別」

歯科保存学(保存修復学)

分野	専門分野	教育内容	臨床歯科医学
単位数	1単位	担当教員名	井上 昌孝
学年	1年次	授業時間	20時間
一般目標	歯科衛生士業務に深い関りをもつ歯科保存学分野の中で、歯の保存治療の中心をなす保存修復学を学び、硬組織疾患の基礎知識と予防法・治療法について学ぶ。		
成績評価	単位修得試験、レポート、授業態度、小テスト結果を総合的に評価		
教本	歯科衛生学シリーズ「保存修復学・歯内療法学」(医歯薬出版)		

回数	教育項目	授業内容
1	歯の保存療法とは	歯の保存療法の種類・口腔検査
2	保存修復学とは	歯の硬組織疾患の種類とう蝕の病態
3	〃	窩洞と保存修復治療
4	保存修復治療の概要	保存修復治療の準備
5	〃	歯の切削、窩洞形成、歯髄保護
6	直接法修復	コンポジットレジン修復
7	実習	コンポジットレジン修復
8	直接法修復、間接法修復	セメント修復、インレー修復
9	合着材および接着材	各種セメント
10	審美性修復、歯のホワイトニング	ベニア修復、漂白法

歯周病予防処置①

分野	専門分野	教育内容	歯科予防処置論
単位数	3単位	担当教員名	山下 由佳・篠原 理恵 肥塚 美奈子・角田 安佳梨
学年	1年次	授業時間	102時間
一般目標	安全で円滑な歯周基本治療を行うために、歯周病予防処置に必要な知識を理解した上で、マネキンにおいて基本的な操作を習得する。		
成績評価	実習記録、態度、その他(実技試験)を総合的に評価		
教本	歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」(医歯薬出版) 歯科衛生学シリーズ「歯周病学」(医歯薬出版)		

回数	教育項目	授業内容
1	3年生指導	3年生からの口腔衛生指導
2	〃	〃
3	〃	〃
4	〃	〃
5	〃	〃
6	〃	〃
7	総論	歯科予防処置の概念
8	〃	口腔、歯周病の基礎知識
9	各論	歯と口腔の観察、検査に使用する器具の名称と役割
10	マネキン取り扱い	マネキンの取り扱い実習
11	鎌型スケーラー	講義
12	〃	マネキン実習

回数	教育項目	授業内容
13	鎌型スケーラー	マネキン実習
14	〃	〃
15	〃	〃
16	〃	〃
17	〃	〃
18	〃	〃
19	〃	〃
20	〃	〃
21	〃	実技試験
22	〃	〃
23	エキスポローリング	講義・マネキン実習
24	プロービング	講義
25	〃	〃
26	〃	マネキン実習
27	〃	〃
28	鋭匙型スケーラー	講義
29	〃	〃
30	〃	マネキン実習
31	〃	〃
32	〃	〃
33	〃	〃
34	〃	〃
35	〃	〃
36	〃	〃
37	〃	〃

回数	教育項目	授業内容
38	鋭匙型スケーラー	実技試験
39	〃	〃
40	超音波・エアスケーラー・歯面研磨	講義
41	〃	〃
42	〃	実習
43	〃	〃
44	〃	〃
45	〃	〃
46	〃	〃
47	シャープニング	講義
48	〃	実習
49	〃	〃
50	まとめ	歯周病予防処置における基礎知識と技術について
51	〃	〃

う 蝕 予 防 処 置

分 野	専門分野	教 育 内 容	歯科予防処置論
単 位 数	1単位	担当教員名	肥塚 美奈子・篠原 理恵 岩城 万希子・平野 直子
学 年	1年次	授 業 時 間	34時間
一般目標	ライフステージごとに効果的なう蝕予防を行うために、プロフェッショナルケアとして行う、う蝕予防の種類・術式・注意点など臨床において必要な知識と手技を修得する。		
成績評価	単位修得試験、授業態度、レポートを総合的に評価		
教 本	歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」(医歯薬出版) 歯科衛生学シリーズ「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学」(医歯薬出版)		

回数	教育項目	授業内容
1	フッ化物総論	フッ化物の知識と応用法について講義
2	〃	〃
3	フッ化物取り扱い	フッ化物溶液の作製、中毒量計算 実習
4	〃	〃
5	フッ化物局所応用法	綿球塗布法 相互実習
6	〃	〃
7	フッ化物集団応用法	イオン導入法
8	フッ化物局所応用法(ホームケア)	フッ化物製品の取り扱い
9	小窩裂溝填塞法	小窩裂溝填塞法の術式・取り扱い方法について講義
10	〃	小窩裂溝填塞法の術式・取り扱い方法 実習
11	〃	フッ化ジアンミン銀の術式・取扱い方法 実習
12	う蝕活動性試験	各種う蝕活動性試験
13	〃	〃
14	う蝕活動性試験 実習	各種う蝕活動性試験・実習
15	〃	〃

回数	教育項目	授業内容
16	腐蝕活動性試験 実習	指導プラン作成・検討会
17	〃	〃

歯科診療補助①

分野	専門分野	教育内容	歯科診療補助
単位数	2単位	担当教員名	清水 敬江・岩城 万希子 角田 安佳梨・肥塚 美奈子
学年	1年次	授業時間	88時間
一般目標	歯科診療補助の概念を理解するとともに、基礎知識を習得する。		
成績評価	レポート、授業態度、その他(実技試験)を総合的に評価		
教本	歯科衛生学シリーズ「歯科診療補助論」(医歯薬出版) 歯科衛生学シリーズ「歯科機器」(医歯薬出版) 歯科衛生学シリーズ「歯科材料」(医歯薬出版)		

回数	教育項目	授業内容
1	総論	歯科診療補助総論
2	共同動作	共同動作について
3	衛生材料の取り扱い	衛生材料の目的と取り扱い 演習
4	〃	〃
5	医療安全と感染予防	医療安全と感染予防 講義
6	〃	〃
7	〃	医療安全と感染予防 演習
8	〃	〃
9	〃	消毒薬について
10	チェアユニットの構造とメンテナンス	ユニット(タカラ)の取り扱いについて 演習
11	〃	ユニット(モリタ)の取り扱いについて 演習
12	〃	〃
13	オリエンテーション	診療準備 演習
14	〃	〃

回数	教育項目	授業内容
15	バキュームテクニック1	バキュームテクニックについて 講義
16	〃	バキュームテクニック マネキン実習
17	〃	〃
18	〃	バキュームテクニック 相互実習(フォーハンド)
19	〃	〃
20	〃	バキュームテクニック 実技実習(フォーハンド)
21	〃	〃
22	ラバーダム防湿	防湿の意義とラバーダム防湿について 講義
23	〃	ラバーダム防湿 マネキン実習
24	歯科材料の取り扱い(印象材)	印象材(アルジネート印象材)の取り扱いについて 講義
25	〃	印象材(アルジネート印象材)の取り扱い マネキン実習
26	〃	〃
27	〃	実技試験
28	〃	〃
29	歯科材料の取り扱い(セメント)	セメント(合着・接着材)の取り扱いについて 講義
30	〃	〃
31	〃	セメント(合着・接着材)の取り扱い 実習
32	〃	〃
33	〃	〃
34	〃	〃
35	〃	実技試験
36	〃	〃
37	歯科材料の取り扱い(仮封材①)	仮封材の取り扱い 講義・演習
38	〃	〃
39	保存修復治療時の歯科診療補助	保存修復治療の歯科診療における歯科衛生士の役割 講義
40	〃	〃

回数	教育項目	授業内容
41	保存修復治療時の歯科診療補助	成形修復材料の取り扱い マネキン実習
42	〃	〃
43	〃	〃
44	〃	〃

歯科保健指導①

分野	専門分野	教育内容	歯科保健指導論
単位数	2単位	担当教員名	難波 恵子・平野 直子
学年	1年次	授業時間	60時間
一般目標	歯科保健指導の概念を理解するとともに基礎的知識技術を習得する。		
成績評価	レポート、授業態度を総合的に評価		
教本	歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」(医歯薬出版)		

回数	教育項目	授業内容
1	総論	導入、歯科保健指導とは
2	〃	歯科保健行動
3	プラークコントロール	口腔観察法,100%磨き
4	口腔衛生	歯ブラシについて
5	〃	ブラッシングの害
6	〃	ブラッシング方法1
7	〃	ブラッシング方法2
8	〃	歯磨剤・洗口液
9	〃	染色剤
10	〃	補助的清掃用具
11	〃	〃
12	ライフステージ	妊産婦期
13	〃	〃
14	〃	新生児期・乳児期・幼児期
15	〃	〃

回数	教育項目	授業内容
16	ライフステージ	学齡期・青年期
17	〃	〃
18	〃	成人期
19	〃	〃
20	〃	老年期
21	〃	〃
22	〃	要介護高齢者
23	口腔衛生	指標
24	小集団指導	場の特徴、話の組み立て
25	〃	班発表
26	〃	媒体選び
27	〃	原稿媒体作製1
28	〃	原稿媒体作製2
29	〃	原稿媒体作製3
30	〃	原稿媒体作製4

栄養指導

分野	専門分野	教育内容	歯科保健指導論
単位数	1単位	担当教員名	堀内 理恵
学年	1年次	授業時間	20時間
一般目標	口腔疾患の発生には全身的要因が深く関わっており、正しい食習慣を身につけることは歯科疾患の治療・予防に重要な意味を持っている。この講義では食生活上の改善が必要な対象者に具体的な食生活改善指導ができるよう栄養・食生活に関する基礎知識を学ぶ。		
成績評価	単位修得試験、授業態度を総合的に評価		
教本	歯科衛生学シリーズ「人体の構造と機能2 栄養と代謝」(医歯薬出版)		

回数	教育項目	授業内容
1	はじめに	歯科医療における栄養指導・食生活の現状と問題点
2	日本人の食事摂取基準	推定エネルギー必要量・食事摂取基準
3	糖質(炭水化物)	糖質(炭水化物)の種類・栄養的意味
4	タンパク質	タンパク質の種類・栄養的意味
5	脂質	脂質の種類・栄養的意味
6	ビタミン	ビタミンの種類・働き・欠乏症
7	ミネラル・水	ミネラルの種類・働き・欠乏症、水
8	食生活と食品1	食品成分表・食品群・食品表示制度
9	食生活と食品2	食べ物のおいしさ・食品の物性
10	食生活と健康	望ましい食生活・ライフステージ別の食事指導

選択必修

関 連 医 学 ①

分 野	選択必修	教 育 内 容	健康と教養
単 位 数	1単位	担当教員名	長尾 匡子
学 年	1年次	授 業 時 間	16時間
一般目標	関連医学の基礎知識を学び、疾患を有する人に対して、歯科衛生士としての関わり方について考える。		
成績評価	単位修得試験		

回数	教育項目	授業内容
1	循環器疾患	高血圧、心疾患の基礎知識
2	誤嚥性肺炎	疾患の基礎知識
3	消化器疾患	〃
4	血液疾患	〃
5	代謝疾患	糖尿病の基礎知識
6	脳神経疾患	疾患の基礎知識
7	感染症	〃
8	精神神経疾患	〃

代 替 医 療

分 野	選択必修	教 育 内 容	健康と教養
単 位 数	1単位	担当教員名	跡部 沙智
学 年	1年次	授 業 時 間	16時間
一般目標	歯科医療の現場で使える代替医療の理論と技法を学ぶ。		
成績評価	レポート、授業態度を総合的に評価		
教本	日本統合医学協会 公式テキストⅠ（日本統合医学協会）		

回数	教育項目	授業内容	担当
1	代替・統合医療の基礎	代替・統合医療の概要を学ぶ	跡部 沙智
2	アロマセラピー概論①	アロマセラピーの基礎	
3	アロマセラピー概論②	アロマセラピーの応用	
4	アロマセラピー概論③	身体や心へのストレスケアを知る	
5	メディカルアロマとハーブ	医療現場における精油・ハーブの活用方法を学ぶ	
6	歯科臨床での代替医療①	口腔衛生品を用いたセルフケアを学ぶ	長上 賀代子
7	歯科臨床での代替医療②	ホワイトニングやホワイトニング前後における患者指導を学ぶ	
8	歯科臨床での代替医療③	歯科領域における代替医療の活用方法を学ぶ	

音 楽 療 法

分 野	選択必修	教 育 内 容	健康と教養
単 位 数	1単位	担当教員名	古川 和香子
学 年	1年次	授 業 時 間	16時間
一般目標	音楽療法は、医療、福祉、教育など多様な領域にまたがっているが、ここでは音楽と人と医療の関係を学びながら、初歩的な口腔ケアの音楽療法を学び、実習する。		
成績評価	レポート、授業態度、テスト結果を総合的に評価		
教本	「音楽療法の基礎」(音楽之友社)		

回数	教育項目	授業内容
1	音楽療法とは	音楽療法とは
2	音楽療法の歴史	音楽療法の歴史、楽器演奏
3	音楽療法の実際(1)	緩和ケアの音楽療法
4	音楽療法の実際(2)	口腔ケアの音楽療法
5	音楽療法の実際(3)	高齢者の音楽療法
6	音楽療法の実際(4)	障害児の音楽療法、グループ討議
7	音楽療法の実際(5)	実際に出来る音楽療法の発表
8	音楽療法のまとめ	総括、テスト

ペン習字

分野	選択必修	教育内容	健康と教養
単位数	1単位	担当教員名	和田 彩
学年	1年次	授業時間	16時間
一般目標	硬筆書写検定4級合格をめざし、合格の要点を学習します。		
成績評価	授業態度、その他(提出課題プリントの内容)を総合的に評価		
教本	硬筆書写技能検定「4級 合格のポイント」(日本習字普及協会)		

回数	教育項目	授業内容
1	4級の実技 第1問	用具の説明(正しいペンの持ち方) 速書き(読み易く、正確に)
2	4級の実技 第2問	漢字と平仮名を大きく書く (美しい平仮名を書く練習)
3	4級の実技 第3問	縦書き(漢字仮名交じり文)五十字ほどの文を書く 基本的漢字と平仮名
4	4級の実技 第4問	漢字仮名交じり文(55字)横書き(片仮名、ローマ字、アラビア数字) 片仮名を学ぶ
5	4級の実技 第5問、第6問	簡単な掲示を書く 油性または耐水性顔料のマーカーを使用する
6	4級の実技 第7問	教育漢字と仮名の筆順
7	4級の実技 第8問	宛名書きの練習 漢字を正しく書く(正しく、美しく)書く
8	4級の実技 第9問、第10問	これまで練習したことを実際の形式でテストする

情報処理

分野	選択必修	教育内容	健康と教養
単位数	1単位	担当教員名	神田 貢
学年	1年次	授業時間	16時間
一般目標	歯科臨床現場に役立つコンピューター活用方法の紹介を通じて学習。個人情報保護やセキュリティに関する基本知識から始まり、口腔内写真の管理を通じてプレゼンテーションに活用するまでや、レセコンへの習熟、オンライン請求に関する知識についてもできるだけ網羅したい。		
成績評価	レポート、授業態度を総合的に評価		

回数	教育項目	授業内容	担当
1	ICT活用とセキュリティ	歯科医院におけるICTの活用及びセキュリティの重要性	伊藤 尚史
2	オンライン請求	オンライン 請求への対応、資格確認	神田 貢
3	口腔内写真活用	口腔内写真の管理と活用方法	上野 健一郎
4	プレゼンテーションの活用	臨床現場で活かせるプレゼンテーションとは	原田 憲作
5	患者教育ソフト	動画やソフト活用による患者教育と自学	江藤 嘉記
6	ソーシャルメディア活用と注意点	ネットワーク社会の危険性について	神田 貢
7	レセコン活用	レセコンに関する基礎	モリタ
8	//	レセコン入力の実際	

2年次



第2学年（55回生）

分野	学科目	講師名	総時間数	単位	ページ
基礎分野	英語Ⅰ（基礎英語）	木村 祐輔	16	1	1
	英語Ⅱ（実践英語）	中川 まゆみ	16	1	2
専門基礎分野	解剖学②	山本 信祐	16	1	3
	口腔生理学	森 明彦	20	1	4
	口腔生化学	伊東 禎雄	20	1	5
	口腔病理学	山根木 康嗣	20	1	6
	口腔微生物学	明石 昌也	16	1	7
	歯科薬理学	笥 康正	16	1	8
	衛生行政・社会福祉②	七野 敏光	16	1	9
	医療事務・受付	医療保険常任委員会委員	16	1	10
専門分野	歯科保存学（歯内療法学）	仲間 ひとみ	22	1	11
	歯科保存学（歯周病学）	宮本 学	20	1	12
	歯科補綴学	谷岡 望	26	1	13
	口腔外科学	谷池 直樹	20	1	14
	歯科麻酔学	安留 輝之	16	1	15
	小児歯科学	西村 貴子	20	1	16
	歯科矯正学	中西 秀郎	22	1	17
	歯科放射線学	木本 明	16	1	18
	障害者歯科	神前 圭吾	16	1	19
	高齢者歯科学	砂治 国隆	16	1	20
	先端医療	野阪 泰弘	16	1	21
	歯周病予防処置②	山下 由佳・篠原 理恵 肥塚 美奈子・角田 安佳梨	96	3	22
	歯科診療補助②	清水 敬江・岩城 万希子 角田 安佳梨・肥塚 美奈子	104	3	25
	臨床検査	大森 雄司	16	1	28
	感染対策	武田 大介	16	1	29
	歯科保健指導②	難波 恵子・平野 直子	90	3	30
	臨床・臨地実習①	各臨床実習指導歯科医師・ 指導歯科衛生士	180	4	33
選択必修	介護福祉論	中村 祐己	60	2	34

基礎分野

英 語 I (基礎英語)

分 野	基礎分野	教 育 内 容	人間と社会生活の理解
単 位 数	1単位	担当教員名	木村 祐輔
学 年	2年次	授 業 時 間	16時間
一般目標	歯科衛生士にとって重要な歯科英単語について語源を中心に学習する。 また、臨床で頻繁に使用する歯科医学関連の略符号について学習し完全習得する。 その中にはKP,PZ,SP,OA,ZSなどに代表されるドイツ語が基になった重要な略符号が存在するので、それらの略符号を理解する上で必要なドイツ語の最低限の知識(発音、名詞の性・格変化)についても授業で簡単に触れる。		
成績評価	単位修得試験		
教本	歯科衛生学シリーズ「歯科英語」(医歯薬出版)		

回数	教育項目	授業内容
1	歯科英単語	歯科医療に携わる者、歯科学、検査、痛みの種類
2	''	全身疾患、歯科疾患、歯科治療、歯・部位の名称 口腔解剖用語、人体各部位
3	''	歯科用頻出英単語
4	''	歯科用頻出英単語
5	''	患者さん向けの単語、子ども向けの単語
6	歯科医学関連の略符号	ドイツ語の基礎、病名、検査・処置その他
7	''	補綴・口腔外科・障害者歯科その他
8	総括	前回までの授業の総括(小テスト)

英 語 II (実践英語)

分 野	基礎分野	教 育 内 容	人間と社会生活の理解
単 位 数	1単位	担当教員名	中川 まゆみ
学 年	2年次	授 業 時 間	16時間
一般目標	シャドーイング メソッドによるリスニングの練習と改善 ディクテーションのテクニックの習得 ペアワークによる基本の会話練習と応用		
成績評価	リスニングテスト		
教本	歯科衛生学シリーズ「歯科英語」(医歯薬出版)		

回数	教育項目	授業内容
1	Part1. ⑤	患者さんに症状を説明してもらう
2	⑥	病歴をたずねる
3	⑦	歯周病
4	⑨	なぜクリーニングが必要か
5	⑩- I	インフォームドコンセント I
6	⑩- II	インフォームドコンセント II
7	⑭	大人のための歯ブラシ指導(実習室)
8	⑮	患者さんへの診療後の指示、テスト

專門基礎分野

解剖学②

分野	専門基礎分野	教育内容	人体(歯・口腔を除く)の構造と機能
単位数	1単位	担当教員名	山本 信祐
学年	2年次	授業時間	16時間
一般目標	頭頸部領域の正常形態と働きを理解する。		
成績評価	単位修得試験、レポート、授業態度を総合的に判断する		
教本	歯科衛生学シリーズ「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」(医歯薬出版)		

回数	教育項目	授業内容
1	口腔	口腔
2	骨学(1)解剖学②	頭蓋・頬骨
3	骨学(2)	上顎骨・下顎骨・顎関節
4	筋学	表情筋と咀嚼筋・舌骨上筋・舌骨下筋
5	脈管学	頭頸部の動脈、静脈、リンパ系
6	神経学(1)	脳神経(1)
7	神経学(2)	脳神経(2)
8	神経学(3)	脊髄神経と自律神経系

口 腔 生 理 学

分 野	専門基礎分野	教 育 内 容	口腔の構造と機能
単 位 数	1単位	担当教員名	森 明彦
学 年	2年次	授 業 時 間	20時間
一般目標	口腔には、唾液分泌や味覚を含めた広義の咀嚼機能のほかに、発声や呼吸に関する機能がある。口腔は消化管の始まりであるため消化器系に属するが、歯科医学では口腔諸器官のことを特に咀嚼系と呼ぶ。この講義では、咀嚼系の正常な機能について学ぶ。		
成績評価	単位修得試験にて判定する		
教本	歯科衛生士テキスト「生理学」(学院書院)		

回数	教育項目	授業内容
1	歯および歯周組織の生理(その1)	歯の硬組織の生理
2	歯および歯周組織の生理(その2)	歯髄ならびに歯周組織の生理
3	咬合および顎運動(その1)	咬合および下顎位
4	咬合および顎運動(その2)	顎運動(下顎運動)
5	咀嚼および下顎反射	咀嚼筋・下顎反射・咬合力
6	吸啜・嚥下・嘔吐	吸啜・嚥下・嚥下反射、嘔吐・嘔吐反射
7	唾液腺および唾液(その1)	唾液および唾液腺の構造と生理作用
8	唾液腺および唾液(その2)	唾液分泌の機序
9	口腔感覚(その1)	皮膚および口腔粘膜の感覚、歯の触覚・圧覚、歯痛
10	口腔感覚(その2)・発声および発音	味覚の生理的特性、味覚の神経機構、音声の種類、発声の中樞神経機構

口 腔 生 化 学

分 野	専門基礎分野	教 育 内 容	歯・口腔の構造と機能
単 位 数	1単位	担当教員名	伊東 禎雄
学 年	2年次	授 業 時 間	20時間
一般目標	1年次に学習した一般生化学を基礎として歯と口腔の生化学を理解し臨床に役立てることを目標とする。		
成績評価	単位修得試験		
教本	歯科衛生学シリーズ「人体の構造と機能2 栄養と代謝」(医歯薬出版)		

回数	教育項目	授業内容
1	1章 歯と歯周組織の生化学	歯と歯周組織、結合組織1
2	''	結合組織2、歯(組成・無機・有機成分)
3	2章 硬組織の生化学	血清中のカルシウムとリン酸、石灰化の仕組み、骨の生成と吸収1
4	''	骨の生成と吸収2、歯の脱灰と再石灰化
5	3章 唾液の生化学	唾液の組成と機能1
6	''	唾液の組成と機能2
7	4章 プラークの生化学	プラークの生物活性、プラークによるう蝕発症
8	''	プラークによるう蝕発症機構 1・2
9	''	プラークによる口臭発症機構
10	''	プラークによる歯周疾患発症機構 1・2

口 腔 病 理 学

分 野	専門基礎分野	教 育 内 容	疾患の成り立ちと回復の促進
単 位 数	1単位	担当教員名	山根木 康嗣
学 年	2年次	授 業 時 間	20時間
一般目標	口腔病理学では口腔におこる疾患を健全な状態と比較しながら学習する。また臨床歯科医学の履修がスムーズにおこなえるようにEvidence-Based Medicine(科学的根拠に基づく医療)の知識を習得する。		
成績評価	単位修得試験、授業態度を総合的に評価		
教本	歯科衛生学シリーズ「疾病の成り立ち及び回復過程の促進1 病理学・口腔病理学」(医歯薬出版)		

回数	教育項目	授業内容
1	口腔病理学概論・歯の異常	口腔病理の概要、歯の発育異常、歯列、咬合の異常
2	歯の損傷と着色・沈着物	歯の物理的・化学的損傷、歯の着色、プラークと歯石
3	齲蝕	齲蝕の原因・誘因、齲蝕の分類と組織学的変化
4	歯髓の病変	歯髓炎、象牙質・歯髓複合体の病態
5	根尖性歯周組織疾患	根尖部歯周組織病変の原因・分類
6	辺縁性歯周組織疾患	辺縁部歯周組織の構造、歯周疾患の原因・分類、咬合性外傷、その他の疾患(エプーリス)
7	口腔粘膜創と抜歯創の治癒、顎・顎関節の病変	病巣の拡がり(歯性上顎洞炎・顎骨骨髓炎・蜂窩織炎)、 ビスホスホネート関連顎骨壊死 創傷治癒に伴う組織変化(抜歯窩、歯周外科、インプラント) 顎関節症
8	口腔領域の嚢胞・口腔粘膜疾患	歯源性・非歯源性嚢胞、軟組織嚢胞、口腔粘膜病変の分類・症状
9	口腔領域の腫瘍	歯源性・非歯源性腫瘍、唾液腺腫瘍、口腔粘膜腫瘍、腫瘍様病変
10	口腔領域の奇形・口腔組織の加齢変化	先天性疾患と遺伝性疾患、加齢に伴う歯・歯髓・歯周組織の変化

口 腔 微 生 物 学

分 野	専門基礎分野	教 育 内 容	疾患の成り立ちと回復の促進
単 位 数	1単位	担当教員名	明石 昌也
学 年	2年次	授 業 時 間	16時間
一般目標	口腔疾患の多くは、内因感染(口腔常在微生物が原因で起こる感染症)であり、歯科衛生士業務の口腔疾患に関する予防処置や保健指導の遂行に当たって、その起因菌の性状や発生のメカニズムなどについて認識させる。		
成績評価	単位修得試験		
教本	歯科衛生学シリーズ「疾病の成り立ち及び回復過程の促進2 微生物学」(医歯薬出版)		

回数	教育項目	授業内容
1	口腔細菌叢	口腔細菌叢
2	〃	バイオフィルムとしてのプラーク
3	口腔感染症	う蝕
4	〃	ミュータンスレンサ球菌
5	〃	歯周病
6	〃	歯周病原細菌
7	その他の口腔感染症	唾液腺・骨髄炎・真菌症など
8	臨床における口腔感染症	臨床における口腔感染症・まとめ

歯科薬理学

分野	専門基礎分野	教育内容	疾患の成り立ちと回復の促進
単位数	1単位	担当教員名	笥 康正
学年	2年次	授業時間	16時間
一般目標	医療における医薬品の目的は、疾病、診断と予防である。薬理学では薬理作用、薬物の作用機序、薬物動態や副作用について学ぶ分野である。そして、歯科衛生士が歯科臨床で薬を正しく使用するためには、使用する薬物の性質をよく知るとともに、薬理学を正しく理解する必要がある。		
成績評価	単位修得試験、レポート、授業態度、小テスト結果を総合的に評価		
教本	歯科衛生学シリーズ「疾病の成り立ち及び回復過程の促進3 薬理学」(医歯薬出版)		

回数	教育項目	授業内容
1	ビタミン・ホルモンと薬	ビタミン、ホルモン、代謝性疾患治療薬
2	感染症と薬	感染症とは、抗感染症薬、消毒薬
3	悪性腫瘍と薬	悪性腫瘍とは、抗悪性腫瘍薬
4	免疫と薬	免疫とは、免疫系に作用する薬物
5	漢方医学と薬	漢方医学とは、漢方薬とは
6	歯・歯髄疾患と薬	齲蝕に用いる薬物、歯・歯髄疾患の治療に用いる薬物
7	歯周疾患と薬	歯周治療における薬物療法
8	顎・口腔粘膜疾患と薬、服薬指導	菌性感染症、口腔粘膜疾患、顎関節症に用いる薬物、コンプライアンスとは、投薬時の注意点

衛生行政・社会福祉 ②

分野	専門基礎分野	教育内容	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会のしくみ
単位数	1単位	担当教員名	七野 敏光
学年	2年次	授業時間	16時間
一般目標	歯科衛生士として医療に従事する際には是非とも、必要な衛生行政・社会福祉の知識を習得する。		
成績評価	単位修得試験、レポート、授業態度、小テスト結果を総合的に評価		
教本	歯科衛生学シリーズ 「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み2 保健・医療・福祉の制度」(医歯薬出版)		

回数	教育項目	授業内容
1	社会保障制度	社会保障制度の概要
2	社会保険	医療保険・雇用保険
3	〃	介護保険(介護保険法制定の背景)
4	〃	介護保険(介護保険法の概要)
5	〃	介護保険(認定手続)
6	公的扶助・社会福祉	生活保護・児童福祉
7	〃	障害者・老人福祉
8	総括	医療関係の統計概覧

医療事務・受付

分野	専門基礎分野	教育内容	歯・口腔の健康と予防に関わる 人間と社会のしくみ
単位数	1単位	担当教員名	医療保険常任委員会委員
学年	2年次	授業時間	16時間
一般目標	歯科医療に関する高度な専門知識、技術を修得することはもちろんのことであるが、衛生行政の仕組みや保健医療、福祉関係の法規についても精通し、また、社会福祉や社会保険制度における医療保障においても、理解を深めるとともに、診療報酬請求事務について学ぶ。		
成績評価	授業態度、小テスト結果を総合的に評価		

回数	教育項目	授業内容
1	医療保障制度と医療保険 I	医療保障制度と医療保険 I
2	医療保障制度と医療保険 II	医療保障制度と医療保険 II
3	公費負担制度と助成医療 I	公費負担制度と助成医療 I
4	公費負担制度と助成医療 II	公費負担制度と助成医療 II
5	診療報酬請求事務と受付事務 I	診療報酬請求事務と受付事務 I
6	診療報酬請求事務と受付事務 II	診療報酬請求事務と受付事務 II
7	診療報酬請求事務と受付事務 III	診療報酬請求事務と受付事務 III
8	診療報酬請求事務と受付事務 IV	診療報酬請求事務と受付事務 IV

專門分野

歯科保存学(歯内療法学)

分野	専門分野	教育内容	臨床歯科医学
単位数	1単位	担当教員名	仲間 ひとみ
学年	2年次	授業時間	22時間
一般目標	硬組織疾患、歯髄疾患および根尖性歯周組織疾患を説明でき、各疾患に対する処置と使用器具と材料を説明できる。		
成績評価	単位修得試験		
教本	歯科衛生学シリーズ「保存修復学・歯内療法学」(医歯薬出版)		

回数	教育項目	授業内容
1	総論、硬組織疾患	歯内治療学とは？硬組織疾患の種類
2	歯髄疾患の種類と病態	歯髄疾患の種類、臨床症状、検査法
3	根尖性歯周組織疾患の種類と病態	根尖性歯周疾患の種類、臨床症状、検査法
4	歯髄保存療法	歯髄保存療法の種類と術式
5	歯髄除去療法	歯髄除去療法の種類と術式
6	根尖性歯周疾患の治療	感染根管治療の術式
7	根管治療に用いる器具・機材	根管治療に使用する器具・機材の特徴
8	根管充填	根管充填に使用する器具・材料と術式
9	外科的歯内治療	外科的歯内治療の種類と適応症
10	根未完成歯の処置、歯内歯周疾患	アペキシゲネーシスとアペキシフィケーション、歯内歯周疾患
11	歯内治療における安全対策、漂白法、歯の外傷	偶発症の原因と予防、漂白法、歯の外傷

歯科保存学(歯周病学)

分野	専門分野	教育内容	臨床歯科医学
単位数	1単位	担当教員名	宮本 学
学年	2年次	授業時間	20時間
一般目標	高齢化社会を迎えた本邦において、口腔の健康を長期間維持するためには、歯周病の予防と治療が不可欠である。歯周病の予防と検査、治療処置の大部分が歯科衛生士の業務範囲に含まれ、歯周治療において歯科衛生士の果たす役割は極めて重要である。実際に歯周治療の臨床現場で活躍している歯科衛生士も多い。ここでは、歯周病の基礎知識と予防法、治療法について詳しく学ぶ。		
成績評価	単位修得試験、授業態度を総合的に評価		
教本	歯科衛生学シリーズ「歯周病学」(医歯薬出版)		

回数	教育項目	授業内容
1	歯周治療の基礎知識	イントロダクション 歯周治療における歯科衛生士の役割
2	〃	歯周組織の構造と機能
3	〃	歯周病の分類、歯周病の原因
4	歯周治療の進め方、歯周病の検査と診断	歯周治療の流れ、歯周治療における問診、 歯周組織検査、口腔内写真
5	歯周基本治療	レントゲン診査、歯周基本治療の概要、 モチベーション、口腔清掃指導
6	〃	スクレーピングとルートプレーニング
7	歯周外科	歯周外科総論、使用器材、歯周外科各論
8	咬合性外傷に対する治療法 根分岐部病変 インプラント周囲炎	咬合性外傷に対する治療 根分岐部病変 インプラント治療とインプラント周囲炎
9	歯周基本治療の実際 メンテナンス治療	歯科衛生士による歯周治療メンテナンス治療、SPTの重要性、方法、歯周病と全身の健康
10	〃	〃

歯科補綴学

分野	専門分野	教育内容	臨床歯科医学
単位数	1単位	担当教員名	谷岡 望
学年	2年次	授業時間	26時間
一般目標	歯の歯質欠損や喪失に伴う障害を説明し、失われた機能や審美性の回復を目的とした補綴歯科治療に関する治療術式や機器、材料などについて幅広い知識をつけさせる。		
成績評価	単位修得試験、実習レポートの提出状況・内容、授業態度を総合的に評価		
教本	歯科衛生学シリーズ「歯科補綴学」(医歯薬出版)		

回数	教育項目	授業内容
1	補綴歯科治療に関する基礎知識	歯科補綴の概要、咬合彎曲、平面、対合関係
2	〃	顎運動と咬合様式、口腔の機能、顎関節症
3	〃	補綴歯科治療における検査、クラウンの種類とその構造
4	〃	クラウン、ブリッジの種類とその構造
5	〃	有床義歯の種類とその構造
6	〃	有床義歯の種類とその構造、特殊な口腔内装置
7	補綴歯科治療の実際	クラウン治療の流れ
8	〃	クラウン・ブリッジ治療の流れ
9	補綴治療における歯科衛生士の役割	プロビジョナルレストレーション製作
10	〃	〃
11	〃	〃
12	補綴歯科治療の実際	全部床義歯治療の流れ
13	〃	部分床義歯治療の流れ、インプラント治療の流れ

口 腔 外 科 学

分 野	専門分野	教 育 内 容	臨床歯科医学
単 位 数	1単位	担当教員名	谷池 直樹
学 年	2年次	授 業 時 間	20時間
一般目標	う蝕、歯周疾患の予防・治療、歯科補綴学とならんで、口腔外科学は臨床歯科医学の重要な位置を占め、かつ広範囲にわたっている。すなわち、顎骨、口腔粘膜、顎関節、唾液腺や神経疾患、さらに全身疾患の口腔症状もここで取り扱われる。これらの疾患の概要と診療の実際、補助について学ぶ。		
成績評価	単位修得試験、レポート、授業態度を総合的に評価		
教本	歯科衛生学シリーズ「口腔外科学・歯科麻酔学」(医歯薬出版)		

回数	教育項目	授業内容
1	顎・口腔領域の先天異常・発育異常	歯・口腔軟組織・顎の先天異常と発育異常 口唇裂・口蓋裂
2	顎・口腔領域の損傷および機能障害	軟組織の損傷、歯および歯槽の外傷、顎骨骨折
3	〃	顎関節疾患
4	口腔粘膜の病変	水疱、紅班およびびらん、潰瘍、白斑、色素沈着、その他の疾患
5	顎・口腔領域の化膿性炎症疾患 顎・口腔領域の嚢胞性疾患	歯周組織の炎症、顎骨の炎症、顎骨周囲組織の炎症 顎骨に発生する嚢胞
6	顎・口腔領域の腫瘍および腫瘍類似疾患	軟組織に発生する嚢胞菌原性腫瘍・非菌原性腫瘍
7	唾液腺疾患、口腔領域の神経疾患 口腔外科診療の実際1	腫瘍類似疾患、唾液腺の炎症・腫瘍、唾石症、三叉神経痛・顔面神経麻痺、抜歯術
8	口腔外科診療の実際2	口腔外科小手術、止血処置、縫合処置
9	口腔外科実習	口腔外科実習
10	〃	〃

歯科麻酔学

分野	専門分野	教育内容	臨床歯科医学
単位数	1単位	担当教員名	安留 輝之
学年	2年次	授業時間	16時間
一般目標	患者の全身管理について、全身状態把握の手技や知識、全身的偶発症への対処や予防について学ぶ。また局所麻酔などの臨床応用についての概念を習得する。医科など他科との連携にも対応できるようにする。		
成績評価	単位修得試験		
教本	歯科衛生学シリーズ「口腔外科学・歯科麻酔学」(医歯薬出版) 歯科衛生士テキスト「歯科麻酔学・全身管理学」(学建書院)		

回数	教育項目	授業内容
1	全身麻酔学概論	概論
2	全身麻酔学概論	概論、プレ実習
3	実習	バイタルサイン測定
4	実習	全身管理モニターの取り扱い
5	全身的偶発症について	重篤度の評価法と対処法
6	全身疾患について	各疾患の病態、発症の予防、発症時の対処法
7	「麻酔」の臨床応用	鎮静法、局所麻酔、全身麻酔について
8	歯科衛生士の役割・心得	全身管理に関わる歯科衛生士の役割・他科連携

小児歯科学

分野	専門分野	教育内容	臨床歯科医学
単位数	1単位	担当教員名	西村 貴子
学年	2年次	授業時間	20時間
一般目標	①小児歯科医療の目的を理解する ②小児の心身および口腔の発育を理解する ③小児歯科診療の流れの特徴を理解する ④小児歯科診療における歯科衛生士の役割を理解する		
成績評価	単位修得試験、レポート、授業態度などを総合的に評価		
教本	歯科衛生士講座「小児歯科学」(永末書店)		

回数	教育項目	授業内容
1	小児歯科学概論、心身の発育	小児歯科学とは、心身の発育、頭蓋と顎の成長発育、 歯科口腔保健管理、歯の発育と異常
2		
3	小児の歯科診療1 小児患者への対応(障碍児を含む)	小児歯科診療の基本、診察・検査、 小児への歯科的対応、障碍児の歯科治療、 小児歯科における局所麻酔法、外科的処置
4		
5	成長期の歯科診療1 小児におけるう蝕予防	小児の歯科疾患(う蝕)、う蝕の予防と進行抑制、 歯列咬合の発育と異常、咬合誘導
6		
7	成長期の歯科診療2	小児の歯科疾患(歯周疾患・軟組織疾患・唇顎口蓋裂) 小児の歯冠修復
8		
9	成長期の歯科診療3 リコールならびに患者管理 まとめ	歯内療法、外傷の処置、リコール(定期健診)、まとめ 復習
10		

歯科矯正学

分野	専門分野	教育内容	臨床歯科医学
単位数	1単位	担当教員名	中西 秀郎
学年	2年次	授業時間	22時間
一般目標	歯学の一科として歯科矯正治療に対するニーズはかなり高い。 このため歯科衛生士は口腔衛生思想の普及とともに矯正治療介補に必要な知識を身につける必要がある。		
成績評価	単位修得試験、レポート、授業態度を総合的に評価		
教本	歯科衛生学シリーズ「歯科矯正学」(医歯薬出版)		

回数	教育項目	授業内容
1	歯科矯正学概論・成長	歯科矯正学とは・頭部・顎・顔面・歯列の成長
2	成長	頭部・顎・顔面・歯列の成長
3	成長口腔習癖	指しゃぶり 成長発育 舌突出癖
4	咬合	正常咬合・不正咬合
5	"	"
6	矯正診断に関する知識	症例分析・診断・セファロ分析
7	"	セファロ分析
8	矯正治療の生物力学	矯正力と歯の移動
9	保定 矯正装置	自然保定・器械保定
10	歯科矯正治療の実際 矯正治療の使用する器材とその取扱い方法	早期治療・混合歯列期・永久歯列期の治療 矯正用器具・矯正材料
11	"	"

歯科放射線学

分野	専門分野	教育内容	臨床歯科医学
単位数	1単位	担当教員名	木本 明
学年	2年次	授業時間	16時間
一般目標	放射線の基礎知識と臨床応用を学び、歯科衛生士の役割を正しく認識すること。		
成績評価	単位修得試験、授業態度を総合的に評価		
教本	歯科衛生学シリーズ「歯科放射線学」(医歯薬出版)		

回数	教育項目	授業内容
1	放射線の基礎(1)	放射線の基礎知識など
2	放射線の基礎(2)	X線の性質など
3	放射線防護(1)	被爆など
4	放射線防護(2)	外部放射線防護の三原則など
5	X線撮影の実際(1)	X線装置など
6	X線撮影の実際(2)	撮影の補助など
7	X線撮影の実際(3)	フィルムの現像と管理など
8	X線撮影の実際(4)	読影など

障 害 者 歯 科

分 野	専門分野	教育内容	臨床歯科医学
単 位 数	1単位	担当教員名	神前 圭吾
学 年	2年次	授 業 時 間	16時間
一般目標	障害者歯科は乳幼児から高齢者まで幅広い年齢層に対して専門性が強く要求される歯科領域とされています。身体的、精神的あるいは心理的に様々な疾患をもった患者に対して、歯科衛生士として理解しておかなければならないこと、また臨床の場においてどの様に対応すべきかなどを解説してゆきます。		
成績評価	単位修得試験		
教本	歯科衛生学シリーズ「障害者歯科学」(医歯薬出版)		

回数	教育項目	授業内容
1	障害の概念	障害者の定義や現状に関して
2	歯科医療で特別な支援が必要な疾患①	障害の種類や特徴①
3	歯科医療で特別な支援が必要な疾患②	障害の種類や特徴②
4	歯科医療で特別な支援が必要な疾患③	障害の種類や特徴③
5	障害者の歯科医療と行動調整	さまざまな行動調整法について
6	健康支援と口腔衛生管理	スペシャルニーズのある人の健康支援
7	リスク評価と安全管理	スペシャルニーズのある人の歯科治療
8	地域における障害者歯科	スペシャルニーズのある人の歯科医療

高 齢 者 歯 科 学

分 野	専門分野	教 育 内 容	臨床歯科医学
単 位 数	1単位	担当教員名	砂治 国隆
学 年	2年次	授 業 時 間	16時間
一般目標	高齢者の特性を理解し、口腔健康管理、口腔リハビリテーション、食支援の考え方を学習すること。 地域活動の中で歯科衛生士として高齢者の歯科医療を实践できることを習得させる。		
成績評価	単位修得試験		
教本	歯科衛生学シリーズ「高齢者歯科学」(医歯薬出版)		

回数	教育項目	授業内容
1	高齢者について	加齢と身体的・精神的変化
2	脳機能について 認知症について	脳血管障害 高次脳機能障害 認知症概論
3	認知症各論	特徴と対応 認知症の人の歯科診療
4	高齢者と食事	食事 摂食・咀嚼・嚥下
5	食支援	食支援 フレイル・オーラルフレイル・口腔機能低下
6	高齢者の健康管理	口腔疾患・全身疾患
7	医療と介護・訪問歯科診療・ 地域包括ケア	地域とのつながり 地域における歯科衛生士の役割
8	グループワーク	食支援につなぐには

先端医療

分野	専門分野	教育内容	臨床歯科医学
単位数	1単位	担当教員名	野阪 泰弘
学年	2年次	授業時間	16時間
一般目標	近年、インプラント治療に対する間違った知識により、トラブル症例が増加している。本授業では、インプラント治療の基礎的な知識と実際の臨床について詳しく学ぶ。		
成績評価	授業態度		
教本	歯科衛生学シリーズ「口腔外科学・歯科麻酔学」(医歯薬出版)		

回数	教育項目	授業内容	担当
1	インプラントの基本	インプラントの歴史、原理、初診時の心構え	野阪 泰弘
2	インプラント治療の流れ①	術前診断、1次手術	
3	インプラント治療の流れ②	2次手術、補綴、メンテナンス	
4	インプラントにおける骨造成術	GBRとサイナスリフト	
5	レーザー①	レーザー治療①	モリタ
6	レーザー②	レーザー治療②	
7	先端医療①	その他の先端医療①	歯科衛生士
8	先端医療②	その他の先端医療②	

歯周病予防処置②

分野	専門分野	教育内容	歯科予防処置論
単位数	3単位	担当教員名	山下 由佳・篠原 理恵 肥塚 美奈子・角田 安佳梨
学年	2年次	授業時間	96時間
一般目標	安全で円滑な歯周基本治療を行うために、情報収集・情報処理を行い、口腔内の特徴に合わせ、様々なインスツルメントを適切に取り扱うことができる。		
成績評価	単位修得試験、実習記録、態度を総合的に評価		
教本	歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」(医歯薬出版) 歯科衛生学シリーズ「歯周病学」(医歯薬出版)		

回数	教育項目	授業内容
1	探針・鎌型スケーラー	相互実習
2	〃	〃
3	〃	〃
4	〃	〃
5	〃	〃
6	〃	〃
7	〃	〃
8	〃	〃
9	〃	〃
10	〃	〃
11	SRP	講義
12	〃	マネキン実習
13	〃	〃
14	〃	相互実習
15	〃	〃

回数	教育項目	授業内容
16	SRP	相互実習
17	〃	〃
18	〃	〃
19	〃	〃
20	〃	〃
21	〃	〃
22	超音波・エアスケーラー・歯面研磨	相互実習
23	〃	〃
24	〃	〃
25	〃	〃
26	〃	〃
27	〃	〃
28	〃	〃
29	〃	〃
30	歯面清掃器	マネキン実習
31	〃	〃
32	歯周治療の流れ	講義
33	〃	〃
34	歯周組織検査	講義
35	〃	〃
36	諸検査	相互実習
37	〃	〃
38	〃	〃
39	〃	〃

回数	教育項目	授業内容
40	諸検査	相互実習
41	〃	〃
42	〃	〃
43	〃	〃
44	〃	〃
45	〃	〃
46	〃	〃
47	〃	〃
48	〃	〃

歯科診療補助②

分野	専門分野	教育内容	歯科診療補助論
単位数	3単位	担当教員名	清水 敬江・岩城 万希子 角田 安佳梨・肥塚 美奈子
学年	2年次	授業時間	104時間
一般目標	患者への配慮を考え、主要歯科材料と器材の取り扱いを学ぶとともに、歯科診療の流れを理解する。		
成績評価	単位修得試験、レポート、授業態度、その他(実技試験)を総合的に評価		
教本	歯科衛生学シリーズ「歯科診療補助論」(医歯薬出版) 歯科衛生学シリーズ「歯科機器」(医歯薬出版) 歯科衛生学シリーズ「歯科材料」(医歯薬出版)		

回数	教育項目	授業内容
1	バキュームテクニック2	バキュームテクニック 相互実習 (術者保持)
2	〃	〃
3	〃	〃
4	〃	〃
5	〃	バキュームテクニック 相互実習 実技試験
6	〃	〃
7	歯科材料の取り扱い(石膏)	歯科用石膏の知識と取扱いについて 講義
8	〃	歯科用石膏の知識と取扱いについて 実習
9	〃	〃
10	歯科材料の取り扱い(精密印象材)	精密印象材 講義
11	〃	〃
12	〃	精密印象材 実習
13	〃	〃
14	歯科材料の取り扱い(印象材)	ハイドロコロイド印象材の取り扱い マネキン実習

回数	教育項目	授業内容
15	歯科材料の取り扱い(印象材)	ハイドロコロイド印象材の取り扱い マネキン実習
16	〃	下顎印象採得 相互実習
17	〃	〃
18	〃	〃
19	〃	上顎印象採得 相互実習
20	〃	〃
21	〃	〃
22	歯科材料の取り扱い(石膏トリミング)	石膏模型の修正と仕上げ 演習
23	〃	〃
24	歯内療法における診療補助	歯内療法の歯科診療における歯科衛生士の役割 講義
25	〃	〃
26	〃	トレーセッティングとパステクニック 実習
27	〃	〃
28	歯科材料の取り扱い(仮封材②、仮着材)	仮封材、仮着材の取り扱い 演習
29	口腔外科における診療補助	口腔外科の歯科診療補助における歯科衛生士の役割 講義
30	〃	〃
31	口腔外科器具・器材の取り扱い	口腔外科の器具・器材の用途の確認と取り扱い 実習
32	〃	〃
33	〃	トレーセッティング 実習
34	〃	〃
35	歯科用エックス線写真口腔内・外撮影法	歯科用口腔内・外撮影法と現像 実習
36	歯科用エックス線写真口腔内・外撮影法と暗室現像	〃
37	歯科エックス線写真口腔内・外撮影法	歯科用口腔内撮影法と器械現像インスタント現像 実習
38	歯科エックス線写真口腔内・外撮影法と器械・インスタント現像	〃
39	歯科用エックス線口内法撮影	二等分法の位置づけ、インジケーター使用方法、相互実習
40	歯科用エックス線口内法撮影相互実習	〃

回数	教育項目	授業内容
41	矯正における診療補助	矯正の診療補助における歯科衛生士の役割 講義
42	〃	矯正器具の確認
43	ホワイトニング(GC)	ホワイトニングについて
44	義歯用材料(GC)	義歯調整、適合試験材料
45	歯科技工について	歯科技工について
46	〃	〃
47	各診療のアシスタントワーク	総まとめ
48	〃	〃
49	〃	〃
50	〃	〃
51	〃	〃
52	〃	〃

臨床検査

分野	専門分野	教育内容	歯科診療補助論
単位数	1単位	担当教員名	大森 雄司
学年	2年次	授業時間	16時間
一般目標	医療人として必要最低限、身につけておくべき基礎医学と全身疾患についての知識を“臨床検査法”という側面から学ぶ		
成績評価	単位修得試験、授業態度、小テスト結果を総合的に評価		
教本	歯科衛生学シリーズ「臨床検査」(医歯薬出版)		

回数	教育項目	授業内容
1	総論	臨床検査の意義、問診について、生体検査
2	検体検査(血液)	血液の生理学、一次止血、二次止血
3	〃	感染症の検査、病理検査
4	〃	肝機能、腎機能
5	〃	糖尿病、内分泌
6	検体検査(細菌)(組織)	免疫(抗原 抗体)、血液型、画像検査
7	口腔領域の臨床検査	嗅、味覚、アレルギー、唾液等、摂食・嚥下について
8	その他	小テスト、1～7のまとめ、復習

感 染 対 策

分 野	専門分野	教 育 内 容	歯科診療補助論
単 位 数	1単位	担当教員名	武田 大介
学 年	2年次	授 業 時 間	16時間
一般目標	歯科医療機関における院内感染対策に必要な基礎知識と方法について学び、将来歯科医療従事者として適切な感染予防対策が行える教養を身に付ける		
成績評価	単位修得試験		
教本	「歯科医療における国際基準 感染予防対策テキスト滅菌・消毒・洗浄」(医歯薬出版)		

回数	教育項目	授業内容
1	感染予防対策の基本	感染経路・標準的予防策
2	歯科医療における滅菌・消毒・洗浄	滅菌・消毒・洗浄の定義、消毒剤の特徴
3	第1～2回のまとめ	国家試験過去問演習
4	歯科医院における感染予防対策	環境消毒、器具・器機の滅菌・消毒・洗浄
5	歯科医療従事者の感染予防対策(1)	個人防護具の扱い方(実習)
6	歯科医療従事者の感染予防対策(2) 第3～4回のまとめ	針刺し事故対策 国家試験過去問演習
7	口腔感染症の予防や治療 結核症・血中ウイルス感染症 ウイルス感染症・その他の感染症	抗菌薬の適正使用 結核症、HIV・HBV・HCV感染症 水痘・带状疱疹、麻疹、風疹、COVID-19
8	第1～7回のまとめ	単位試験対策

歯科保健指導②

分野	専門分野	教育内容	歯科保健指導論
単位数	3単位	担当教員名	難波 恵子・平野 直子
学年	2年次	授業時間	90時間
一般目標	ライフステージに合わせて適切な歯科保健指導行動がとれるように、援助・支援するために必要な態度・知識・技術を習得する。		
成績評価	単位修得試験、小テスト結果、授業態度を総合的に評価		
教本	歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」(医歯薬出版)		

回数	教育項目	授業内容
1	小集団指導	媒体作製1
2	〃	媒体作製2
3	〃	媒体作製3
4	〃	〃
5	〃	媒体作製4
6	〃	〃
7	〃	媒体作製5
8	〃	〃
9	〃	集団練習1
10	〃	〃
11	〃	集団練習2
12	〃	〃
13	〃	集団練習3
14	〃	集団練習4
15	〃	〃

回数	教育項目	授業内容
16	小集団指導	クラス発表会
17	〃	〃
18	〃	学内発表会
19	〃	集団練習5
20	〃	集団練習6
21	〃	集団練習7
22	総論 食生活	食生活指導
23	歯科衛生過程	総論
24	〃	〃
25	〃	業務記録
26	〃	プロセス1
27	〃	プロセス2
28	〃	演習 症例検討(グループワーク)1
29	〃	演習 症例検討(グループワーク)2
30	〃	演習 症例検討(グループワーク)3
31	〃	演習 症例検討(グループワーク)4
32	〃	発表
33	〃	〃
34	ライフステージ	障害者
35	〃	〃
36	口腔内写真	講義
37	〃	〃
38	口腔内写真、口腔衛生①	実習
39	〃	〃

回数	教育項目	授業内容
40	口腔内写真、口腔衛生②	実習
41	〃	〃
42	口腔衛生	オーラルケア実習
43	〃	〃
44	コミュニケーション	コミュニケーション法
45	〃	〃

臨床・臨地実習①

分野	専門分野	教育内容	臨床・臨地実習
単位数	4単位	担当教員名	各臨床実習指導歯科医師・指導歯科衛生士
学年	2年次	授業時間	180時間以上
一般目標	医療人となる為の自覚を持ち、患者の立場に立った歯科臨床の基礎となる素養を身につける。学内で習得した知識を臨床の場で結びつけ、自己を客観的に評価し、さらなる知識の充実を計る。		
成績評価	各実習先指導者より、出席状況、実習態度、レポートを総合的に判断して評価		

回数	教育項目	授業内容	日数
1	プレ臨床実習(個人開業医院)	1)開業医院見学オリエンテーション	0.5日
		2)見学実習	10日
2	歯と口の健康週間行事	小集団指導による口腔衛生指導	6.5日
		イベント	1日
3	臨地実習	公衆衛生活動	2日
4	臨床実習(見学実習)	オリエンテーション	0.5日
		1)矯正専門医院	2日
		2)センター	1日
		* 詳細は各実習マニュアル参照	

選択必修

介 護 福 祉 論

分 野	選択必修	教 育 内 容	健康と教養
単 位 数	2単位	担当教員名	中村 祐己
学 年	2年次	授 業 時 間	60時間
一般目標	<p>食べる機能は誰にとっても生きる上で重要な機能である。また、食べる機能は生まれてから獲得する機能であるが、先天的・後天的な原因でうまく獲得できなかったり、一度は獲得できていても損なったりすることがある。食べる機能が障害されると、心身の発達や健やかな生活が妨げられるだけでなく、肺炎や窒息の原因となり命に関わる場合もある。</p> <p>口の専門家である歯科衛生士として、食べる機能やその障害を理解し、支援できる力を身に付けることを目標とする。</p>		
成績評価	単位修得試験、レポート、授業態度を総合的に評価		
教本	歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション(医歯薬出版) 歯科衛生学シリーズ「高齢者歯科学」(医歯薬出版) 歯科衛生学シリーズ「障害者歯科学」(医歯薬出版)		

回数	教育項目	授業内容	担当
1	歯科における摂食嚥下リハビリテーション	摂食嚥下機能とその障害、 歯科とリハビリテーション、VE実習ほか	中村祐己 (歯科医師)
2	〃	〃	
3	〃	〃	
4	〃	〃	
5	〃	〃	
6	〃	〃	
7	〃	〃	
8	〃	〃	
9	〃	〃	
10	〃	〃	
11	〃	〃	
12	〃	〃	
13	介護福祉総論	介護福祉総論(介護保険制度を含む)	長尾匡子 (看護師)
14	〃	〃	
15	基本介護実習	基本介護実習(排泄・入浴・体位交換など)	

回数	教育項目	授業内容	担当
16	基本介護実習	基本介護実習(排泄・入浴・体位交換など)	長尾 匡子 (看護師)
17	リハビリとは	リハビリテーションの知識	栄 健一郎 (理学療法士)
18	〃	リハビリテーションと障害	
19	〃	座位姿勢の基礎	
20	リハビリとは(リハビリ実習)	座位のリハビリテーション	
21	〃	座位を助ける福祉用具	
22	言語聴覚士からみた摂食嚥下障害①	高齢者	永来 努 (言語聴覚士)
23	〃	〃	
24	〃	〃	
25	〃	〃	
26	リハビリ実習	高齢者(リハビリ実習)	
27	〃	〃	
28	言語聴覚士からみた摂食嚥下障害②	障害児	
29	〃	〃	
30	リハビリ実習	障害児(リハビリ実習)	

3 年次



第3学年（55回生）

分野	学科目	講師名	総時間数	単位	ページ
専門分野	歯周病予防処置③	山下 由佳・篠原 理恵 肥塚 美奈子・角田 安佳梨	30	1	1
	歯科診療補助③	清水 敬江・岩城 万希子 角田 安佳梨・肥塚 美奈子	18	1	2
	看護学	大植 由佳	16	1	3
	歯科保健指導③	難波 恵子・平野 直子	20	1	4
	臨床・臨地実習②	各臨床実習 指導歯科医師・ 指導歯科衛生士	720	16	5
選択必修	関連医学②	安留 輝之・高岡 一樹	16	1	6

專門分野

歯周病予防処置③

分野	専門分野	教育内容	歯科予防処置論
単位数	1単位	担当教員名	山下 由佳・篠原 理恵 肥塚 美奈子・角田 安佳梨
学年	3年次	授業時間	30時間
一般目標	臨床で患者教育を行うために、ライフステージに沿って患者の病態を把握・分析して歯科衛生計画を立案した上で、立案計画の実施、評価をすることができる。		
成績評価	実習記録、態度を総合的に評価		
教本	歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」(医歯薬出版) 歯科衛生学シリーズ「歯周病学」(医歯薬出版)		

回数	教育項目	授業内容
1	1年生指導	1年生への口腔衛生指導
2	〃	〃
3	〃	〃
4	〃	〃
5	〃	〃
6	〃	〃
7	〃	〃
8	〃	〃
9	まとめ実習	まとめ実習
10	〃	〃
11	〃	〃
12	〃	〃
13	〃	〃
14	〃	〃
15	偶発事故	偶発事故講義

歯科診療補助③

分野	専門分野	教育内容	歯科診療補助論
単位数	1単位	担当教員名	清水 敬江・岩城 万希子 角田 安佳梨・肥塚 美奈子
学年	3年次	授業時間	18時間
一般目標	円滑な歯科診療補助を行うために、1・2年生で学んだ知識・技術を高め、臨床で応用できる能力を身につける。		
成績評価	レポート・実技試験を総合的に評価		
教本	歯科衛生学シリーズ「歯科診療補助論」(医歯薬出版) 歯科衛生学シリーズ「歯科機器」(医歯薬出版) 歯科衛生学シリーズ「歯科材料」(医歯薬出版)		

回数	教育項目	授業内容
1	歯科医院での感染対策	感染対策について
2	在宅における診療補助	在宅診療における材料準備と歯科診療補助 講義
3	〃	〃
4	総括	各診療時のアシスタントワーク
5	〃	〃
6	〃	〃
7	〃	〃
8	〃	〃
9	〃	〃

看護学

分野	専門分野	教育内容	歯科診療補助論
単位数	1単位	担当教員名	大植 由佳
学年	3年次	授業時間	16時間
一般目標	看護の概念・看護の対象について理解し、理論や原理原則に基づいた基本的な看護技術(コミュニケーション・感染予防・バイタルサイン測定・薬物療法)を理解する。		
成績評価	単位修得試験、レポートを総合的に評価		

回数	教育項目	授業内容
1	看護の概念	“看護”とは
2	〃	看護学を支える理論、IPE(多職種間連携)について
3	看護技術(1)	看護の対象を理解する為に “人”とは、“人間”とは、“成長”とは、“発達”とは 看護過程の技術
4	看護技術(2) コミュニケーション	健康教育(学習支援)、コミュニケーションの技術
5	看護技術(3) バイタルサイン	対象を“診る”とは、“観察”とは、人の身体が発する“音”、 人が生きていることの証ーバイタルサイン
6	看護技術(4) 〃	〃
7	看護技術(5) 感染予防	医療職に共通した感染予防の技術
8	看護技術(6) 薬物療法、医療安全	“薬”とは、与薬とは、薬物療法、医療事故

歯科保健指導③

分野	専門分野	教育内容	歯科保健指導論
単位数	1単位	担当教員名	難波 恵子・平野 直子
学年	3年次	授業時間	20時間
一般目標	専門的な立場から歯科保健指導・口腔保健管理を行う知識・能力を身につけ、ライフステージ毎に指導内容を考え実践する。		
成績評価	レポート、授業態度を総合的に評価		
教本	歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」(医歯薬出版)		

回数	教育項目	授業内容
1	特別講義	食育
2	〃	〃
3	〃	介護保険の中の歯科衛生士
4	〃	〃
5	口腔衛生	口腔ケア実習①
6	〃	口腔ケア実習②
7	口腔機能管理	周術期口腔機能管理
8	〃	摂食嚥下の評価、摂食嚥下訓練法(間接訓練)
9	〃	摂食嚥下訓練法(直接訓練)、口腔機能低下症
10	〃	介護食、食事介助

臨床・臨地実習②

分野	専門分野	教育内容	臨床・臨地実習
単位数	16単位	担当教員名	各臨床実習指導歯科医師・指導歯科衛生士
学年	3年次	授業時間	720時間以上
一般目標	歯科衛生士として、学内で習得した知識・技術・社会性を、臨床および臨地実習の場において、実践できる能力を身につける。		
成績評価	各実習先指導者より、出席状況、実習態度、レポートを総合的に判断して評価		

回数	教育項目	授業内容	日数
1	臨床実習	1) 病院・センター・開業医院見学オリエンテーション	0.5日
		2) 病院・センター・開業医院実習	6・7・9・10月
2	臨地実習	1) 障害者施設実習	10日
		2) 高齢者施設実習	10日

選択必修

関 連 医 学②

分 野	選択必修	教 育 内 容	健康と教養
単 位 数	1単位	担当教員名	安留 輝之・高岡 一樹
学 年	3年次	授 業 時 間	16時間
一般目標	歯科治療、歯科衛生士業務を安全かつ円滑に行うために、全身管理に関する基本的な知識と態度を習得する。		
成績評価	授業態度		
教 本	歯科衛生士テキスト「歯科麻酔学・全身管理学」(学建書院) 歯科衛生学シリーズ「口腔外科学・歯科麻酔学」(医歯薬出版)		

回数	教育項目	授業内容	担当
1	歯科臨床における歯科麻酔学の概論	歯科麻酔学の知識を臨床にどう生かすか解説	安留 輝之
2	生体監視モニターの使い方	治療中患者の状態把握のためのモニターの使い方	
3	麻酔法の実際	麻酔に関する器具、薬剤について	
4	全身的偶発症について	患者の全身的偶発症に対する処置・病態	
5	全身疾患について	全身疾患の病態、症状発生時の処置・予防	
6	情報リテラシーについて	ネット検索にて学習する際の注意点	
7	肝・腎疾患、代謝・内分泌疾患	肝硬変、腎不全、糖尿病などの基礎知識	高岡 一樹
8	各種薬剤投与の口腔への影響	抗血栓薬、骨吸収抑制薬、抗がん剤、免疫抑制剤などの基礎知識	

実務経験のある教員等による授業

担当科目	氏 名	実務経験
化学	秋篠 範子	臨床検査技師として実務経験有り
心理学	丸山 智美	公認心理士として実務経験有り
医療コミュニケーション	大島 百合香	歯科衛生士として実務経験有り
一般教養(小論文)	青松 智学	学習塾講師として実務経験有り
一般教養(ホスピタリティ学)	岡本 真樹	企業にて実務経験有り
一般教養(ホスピタリティ学)	中村 智恵子	企業にて実務経験有り
運動生理学	甲斐 義浩	理学療法士として実務経験有り
解剖学①	清水 孝治	歯科医師として実務経験有り
解剖学②	山本 信祐	歯科医師として実務経験有り
生理学	森 明彦	歯科医師として実務経験有り
生化学・口腔生化学	伊東 禎雄	歯科医師として実務経験有り
口腔解剖学	小林 正樹	歯科医師として実務経験有り
組織発生学	藤岡 学	歯科医師として実務経験有り
病理学・口腔病理学	山根木 康嗣	歯科医師として実務経験有り
微生物学	楠元 順哉	歯科医師として実務経験有り
口腔微生物学	明石 昌也	歯科医師として実務経験有り
薬理学	長谷川 巧実	歯科医師として実務経験有り
歯科薬理学	笥 康正	歯科医師として実務経験有り
情報統計学	坂中 哲人	歯科医師として実務経験有り
衛生学・公衆衛生学	平岡 佑二郎	歯科医師として実務経験有り
医療事務・受付	宮井 幸子	歯科医師として実務経験有り
医療事務・受付	黒石 達也	歯科医師として実務経験有り
歯科臨床概論	清水谷 公成	歯科医師として実務経験有り
歯科臨床概論	大矢 卓志	歯科医師として実務経験有り
歯科保存学(保存修復学)	井上 昌孝	歯科医師として実務経験有り
歯科保存学(歯内療法学)	仲間 ひとみ	歯科医師として実務経験有り
歯科保存学(歯周病学)	宮本 学	歯科医師として実務経験有り
歯科補綴学	谷岡 望	歯科医師として実務経験有り
口腔外科学	谷池 直樹	歯科医師として実務経験有り
歯科麻酔学・関連医学②	安留 輝之	歯科医師として実務経験有り
小児歯科学	西村 貴子	歯科医師として実務経験有り
歯科矯正学	中西 秀郎	歯科医師として実務経験有り
歯科放射線学	木本 明	歯科医師として実務経験有り
障害者歯科	神前 圭吾	歯科医師として実務経験有り
高齢者歯科学	砂治 国隆	歯科医師として実務経験有り
先端医療	野阪 泰弘	歯科医師として実務経験有り
臨床検査	大森 雄司	歯科医師として実務経験有り
感染対策	武田 大介	歯科医師として実務経験有り
看護学	大植 由佳	看護師として実務経験有り
栄養指導	堀内 理恵	管理栄養士として実務経験有り
介護福祉論	中村 祐己	歯科医師として実務経験有り
関連医学①	長尾 匡子	看護師として実務経験有り
関連医学②	高岡 一樹	歯科医師として実務経験有り
情報処理	神田 貢	歯科医師として実務経験有り
歯科衛生士概論・歯周病予防処置 歯科診療補助・う蝕予防処置	肥塚 美奈子	歯科衛生士として実務経験有り
歯科診療補助・歯周病予防処置	角田 安佳梨	歯科衛生士として実務経験有り
歯科保健指導	難波 恵子	歯科衛生士として実務経験有り
歯周病予防処置	山下 由佳	歯科衛生士として実務経験有り
歯周病予防処置・う蝕予防処置	篠原 理恵	歯科衛生士として実務経験有り
歯科診療補助	清水 敬江	歯科衛生士として実務経験有り
歯科診療補助・う蝕予防処置	岩城 万希子	歯科衛生士として実務経験有り
歯科保健指導・う蝕予防処置	平野 直子	歯科衛生士として実務経験有り

※ここでいう「実務経験」とは、「大学等における修学の支援に関する法律」に則るもので、大学等における教育研究活動ではない「実務」の経験を指すものであり、他の大学等における教員としての勤務経験は「実務経験」には該当しない。また、大学附属病院において医師や歯科医師、看護師や歯科衛生士としての勤務経験を有する教員も「実務経験」のある教員に該当する。



氏 名